



Innovation for the Rotary club ロータリーに新風を 2014 年 4 月のロータリーレートは1ドル= 102 円
 地区大会は 10/4 ~ 10/5



例会便り

第 746 回例会

ホテル日航 4F

6.12 木) 19:00

例会出席率 21/37 56.75 %

武藤清秀 SAA 3 月の平均出席率は、69.50 %



点 鐘

ロータリーソング 『手に手つないで』
 四つのテスト

会長 挨拶：北陸財務局は昨日 4 月～6 月期の北陸 3 県の法人企業の景気予測調査を発表いたしました。景気状況判断(指数)は全産業ベースでマイナス 21.6 %と前年調査に比べ、28.3 ポイント低下しま

した。消費増税による駆け込み需要の反動減が影響したようです。

7 月～9 月期は 9.7 %改善する見方ようです。当社の方は 6 月に少し影響が出てきております。このあとの 7 月～9 月期に期待をしているところです。

話が変わりますが、11 日に高松の種なしブドウのデラウェアの収穫が始まったとありました。私は果物の中でも特にデラウェアが大好きで、毎年約 2 ヶ月間(7 月の中頃から 9 月の中頃まで)毎日 1 房食べており、とても楽しみな時季になりました。宣伝ではありませんが、私の食べているブドウは河北潟の野村農園で大変甘く大きいブドウです。私の名前を言って頂くと多分 1 房～2 房サービスしてくれると思います。良かったらぜひどうぞ!

ゲストの紹介(卓話者) 金沢大学 子どものこころの発達研究センター特任教授 東田陽博 様
 (米山奨学生) 楊(やん)立山(りっさん)様 奨学金支給とご挨拶

ビジターのご紹介： なし

クラブ例会予定 2013-2014 年度

- 6/5 若野恒彦様(地区 R 米山記念奨学会 委員長)
- 6/12 東田陽博 様(金沢大学 子どものこころの発達研究センター 特任教授) 理事役員会
- 6/19 後藤徹 様(金沢美大視覚デザイン教授)
- 6/26 慰労会・新入会員歓迎会

2013 ~ 14 理事・役員 委員会 ★太字: 理事役員

(役員) 会長: 野城勲 **エ**外: 宮永満祐美 副会長: 若狭豊 副会長: 魏賢任 幹事: 上杉輝子
 副幹事: 井口千夏 会計: 東海林也令子 SAA: 武藤清秀 直前会長 北山吉明
 (理事) **クラブ管理運営委員長: 西村邦雄** 副: 二木秀樹 親睦: ○二木秀樹 金沂秀 村田祐一 杵屋喜三以満
 井口千夏 プログラム: ○魏賢任 木場紀子 谷伊津子 武藤清秀 SAA: ○武藤清秀 大路孝之 川きみよ
 ニコニコ: ○江守巧 東海林也令子 土田初子 友好・クラブ細則: ○水野陽子 宮永満祐美 岩倉舟伊智
奉仕プロジェクト委員長: 木場紀子 副: 水野陽子 職業: ○永原源八郎 竹田敬一郎 社会: ○谷伊津子
 辰己クミ 大沼俊昭 国際: ○川きみよ 江守道子 井口千夏 東海林也令子
 喫煙問題: 村田祐一 **会員組織委員長: 金沂秀** 副: 辰己クミ 会員増強修練: ○藤間勘菊 石丸幹夫
 炭谷亮一 金沂秀 魏賢任 **ロータリー財団委員長: 藤間勘菊** 副: 永原源八郎 **ロータリー財団・米山寄付:**
 ○木場紀子 藤間勘菊 川きみよ 大路孝之 年次寄付: 野城勲 **広報委員会委員長: 村田祐一** 副: 江守道子
 広報: ○杵屋喜三以満 相良光貞 宍戸紀文 **ロータリー情報:** ○若狭豊 竹田敬一郎 山崎正美 会報ホーム
 ページ: ○石丸幹夫 宍戸紀文 稲山訓央 **常任理事: 石丸幹夫 吉田昭生**
理事会オブザーバー・アドバイザー: パストガバナー 炭谷亮一 地区パスト幹事 岩倉舟伊智
 監査 後出 博敏
長期姉妹クラブ担当 南光州: 金 石丸 岩倉 江守巧 東京世田谷中央: 炭谷 岩倉 石丸 藤間
 京都北東: 炭谷 杵屋 水野 高崎: 石丸 村田 金沂秀 藤間 宮永

例会場 ホテル日航金沢 5F 〒920-0853 金沢市本町 2-15-1 T076-234-1111 例会日時 木曜日 19:00
 事務室 ライブ 1 ビル 2F 〒920-0852 金沢市此花町 3-2 T076-262-2211 F076-262-2241(事務局) 村木早苗・古賀恵
 E-mail khrc@quartz.ocn.ne.jp ホームページ URL http://www17.ocn.ne.jp/~hrc/
 事務局執務時間 月火水金 9:00 ~ 15:00 休憩時間 12:00 ~ 13:00 木 15:00 ~ 20:00
 休日(土日祝日) 幹事 上杉輝子



楊立山 さんの挨拶： 今晩は先月 東京で個展を開く事ができました。沢山の人に来ていただきました。ロータリーのおかげです。ありがとうございました。今は卒業製作です。

皆出席者顕彰： 7ヵ年 炭谷 亮一 会員

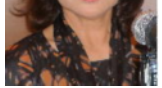


《 食 事 》

幹事報告/委員会報告



上杉輝子幹事： 本日、例会後は理事役員会がありますのでよろしくお願いいたします。先週はブリアナさんの送別会、事務局の送別歓迎会がありました。ブリアナさんの送別会は新聞にのりました。来年度も催し物は広報したいと思います。



宮永満祐美次期会長： 異業種交流からスタートしたロータリークラブは職業奉仕超我の奉仕と進化しましたが、北陸新幹線の開通でこの地区の東京化が予想されます。地域の個性はしっかり守り、地区のふる里を考える必要があります。また社会奉仕、クラブ奉仕に、マスコミには働き掛け、日本のロータリーの存在感を明確にする必要があります。

ロータリーのふるさとを考える会委員長お牧田さんからアンケート用紙が事務局に来ていますので皆様の意見をお願いします。6/30 までにガバナー事務局に提出となっていますのでなるべく早くお願いします。



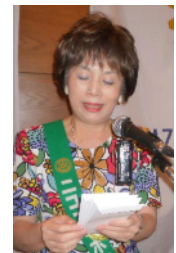
二木秀樹親睦委員長： 親睦委員会のゴルフコンペの御報告。おくれげながら 6/8 (日) 能登カントリーでおこなわれました。金沢北クラブの応援もありました。優勝は 金ちゃん、二位は若狭先生でした。



ニコニコBOX

¥ 7,000- 本年度 ¥ 670,800- 残高 ¥ 5,439,514-

野城会長： 本日の卓訪を宜しくお願いいたします。 **上杉幹事：** 東田先生：ようこそいらっしゃいました。今日のお話楽しみにしています。 **北山会員：** ①もう記憶から消えようとしているかもしれませんが、5月28日のコンサートありがとうございました。楽しく終えることができました。②東田先生宜しく願います。 **炭谷会員：** 東田先生、今夜は御苦勞様です。 **宮永会員：** 東田先生本日はよろしく願います。



講話の時間

『「イクメン」マウスの研究：こんな研究が自閉症の研究？』

金沢大学 子どものこころの発達研究センター

特任教授 東田(ひがしだ) 陽博(はるひろ) 様



昭和 46 年(1971)3 月 岐阜大学 医学部卒業
 昭和 50 年(1975)10 月名古屋大学大学院 医学研究科生理学専攻 博士課程修了
 平成 10 年 4 月 金沢大学大学院・医学研究科・分子情報医学系独立専攻・細胞遺伝子学・教授
 平成 13 年 4 月 金沢大学大学院医学系研究科 0 脳細胞遺伝子学講座・教授
 平成 17 年 クラスノヤルスク医科大学客員教授(ロシア)
 平成 20 年 4 月 金沢大学子どものこころの発達研究センター・相互認識機能研究基礎部門教授(兼任)・センター長(併任)
 平成 21 年 4 月 大阪大学大学院大阪大学・金沢大学浜松医科大学連小児発達学研究所金沢校教授(兼任)

平成 24 年 4 月 金沢大学子どものこころの発達研究センター相互認識機能研究基礎部門教授(特任)大阪大学大学院大阪大学・金沢大学浜松医科大学千葉大学福井大学連小児発達学研究所(金沢校)こころの相互認知科学講座(社会神経科学研究)

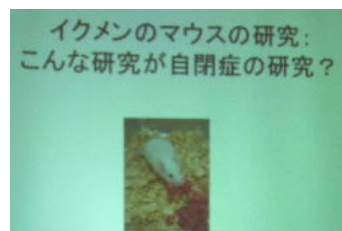
- 平成10年5月1日 上原記念財団助成金
- 平成22年11月3日 金沢市文化賞
- 平成24年1月 1日 クラスノヤルスク医科大学名誉教授
- 平成24年4月 1日 金沢大学名誉教授
- 平成24年4月17日 文部科学大臣表彰科学技術賞(研究部門))
- 平成25年5月21日 第36回石川テレビ賞



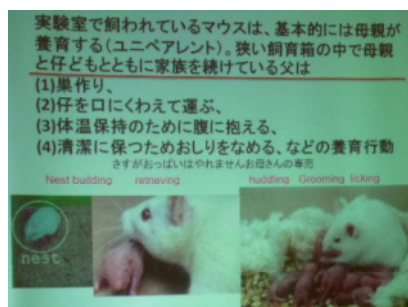
ご夫人はロータリアン

講話： 育男（イクメン）をマウスで科学する

人の社会にとっても大事な話なので、マウス（ネズミの一種）を使った最近の実験結果をお話します。

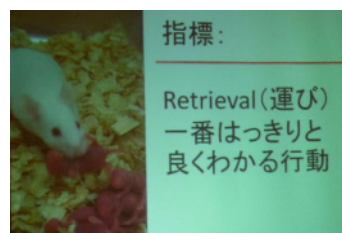


社会の誰かと自分を結びつける働きをするさまざまな行動を親和性社会行動と言います。親和性社会関係の中でも親子関係は哺乳類にとって基本中の基本です。哺乳類の子は未熟に生まれ、親が哺乳や保護などの子育てをしなければ成長ができません。そのため、子どもには親を慕う「愛着行動」、親には子どもを守り世話をする「養育行動」



に必要な神経回路（両親脳）が備わっていることがわかってきました。

「子育て」が社会の助けの中でできなくなり、少子化社会の中ではますます両親のみに大きく負担がかかってきています。昔と異なり、祖父母や地域の人の支援がない状態や父親の不在、児童虐待や無視などの親子関係の問題は小児のうつ病、社会適応の障害、次世代への不適切養育の繰り返しなどのリスクを高める可能性があります。し



いては、莫大な社会コストを要求します。不適切養育を予防・治療し、今日社会の課題の一つである父親による養育への参加問題（最近イクメン<育と男のメンをあわせた言葉、厚生労働省も使っています>と呼ばれている）を考えるには、まず哺乳類の父親の養育本能や能力の有無やその神経機構を明らかにする事が大切です。父親がきちっと養育に参加する哺乳類動物の割合は5%ほどと言われています。アメリカにいるハタネズミは一夫一妻制の家族形態をとり、遺伝的に養育能力を獲得して

いて、その中に入ります。ヒトの父親は、世界のほとんどで、一夫一妻制ですが、父親が母親と全く同じ養育を負担をしていないし、出来ない複雑な社会要因

があります。人の場合は残りの95%の中に入ります。医学研究によく使う、実験室で飼われているマウスは、基本的には母親が養育する（ユニペアレント）方式を取り、やはり95%の中です。しかし、狭い飼育箱の中で母親と子どもとともに家族を続けている父親では、巣作り、仔を口にくわえて運ぶ（図1）、体温保持のために腹の下に抱える、清潔に保つため尾部をなめる、などの養育行動を取ることが知られています。そこで、どのようにすると父親がより良く養育行動をするか、調査研究をしました。

生後3-5日の新生児を取り出し（親子分離と言うストレス刺激）、今まで生活した事の無い全く新しい飼育室（環境；図2の黄色い箱）に父親と妻マウスを10分間おいておいた後（父親にとっては、両親として、同じ環境で新生児より隔離）、父親を生活していた飼育箱にもどし、同時に子どもマウスを元の巣から離れた所に置きます。そして、父親が元の巣に子どもを口に加えて運び、連れ戻すと言う養育行動を取るかどうかを試験しました。すると、父親は10分以内にちゃんと養育しました（図2の下の絵）。

ところが、父親だけにして、妻や仔から新しい飼育室に分離すると、今度は養育しなくなりました（図2の上の絵）。すなわち、新しい環境に父親のみで10分間おかれるだけで、養育するという行動が失われました（家族性<家族の記憶>がなくなったと解釈します）。

新しい環境に父親一人でおかれた状態と、妻である母親と共に置かれた状態の違いから、母親から父親へ何らかの養育に係る情報が伝達されていると推測されました。

そこで、新しい飼育箱に妻だけ10分置いて（分泌液がその箱に付着していると考えます）、母親を取り出し、その箱に今度は父親を10分間入れます。その父親は養育をします。

また、新しい飼育箱に父親と母親を入れていると、非常に特徴のある、声（38キロヘルツの超音波音声）を発している事がわかりました。この、声を再生して、父親に聞かせると、養育しました。すなわち、これで妻から夫への養育に係る内容の会話が行なわれていた事が証明できたのです。フェロモンとともに超音波によるコミュニケーションが行われたと解釈できます。

女は子どもを産むと（出産を契機に）不可逆的な母親脳を獲得し母親になります。男は子どもができると、両親脳あるいは養育脳が獲得され父親になるように見えるのですが、それは、可逆的だと言う事をこの実験で示す事ができました。この男と女の両親脳の違いは判っていた事なのですが、父親脳を維持できる事を新たに見出す事ができました。

マウスのできる事が人でもできるはずですから、マウスに学ぶことも大事なと。この頃思っています。

図1 養育行動の一つで、口に咥えて運び、子どもを移動させる行動(retrieve)を示す。

図2 異なる親子分離の仕方により、子どもを運ばない（養育しない）父親（上）とする父親（下）。黄色の四角は新しい飼育箱、黒枠は今まで生活してきたホームケージ。10分の分離を父親のみで行なう場合が上側で、妻（母親）と一緒にいる場合が下。父親の養育行動試験は、ホームケージに5匹の子どもと一緒に戻して、10分間観察する。

点 鐘

「明治の文豪 鷗外と漱石」

森鷗外と夏目漱石、二人は近代日本文学を代表する二大文豪である。ともに同時代を生き抜き、旺盛な執筆活動を展開し日本文学史上に燦然と名を残した。二人はエリート中のエリートである。明治政府の国費留学生として?外はドイツ、漱石はイギリスへそれぞれ留学している。?外は日本にいる時の様な周囲からのプレッシャーから解放されて、西洋の自由な空気を胸いっぱい吸い込み青春を謳歌し、時には大日本帝国軍人として誇りを持って流暢なドイツ語でドイツ人達と胸襟を開いて交流し、時には憤怒をもって西洋と日本の文化の相違点に論陣をはっている。又当時発展途上国の留学生としては珍しく、ドイツ人女性と恋に落ちている。一方漱石は西洋にはまったく馴染めず、ロンドンで過ごした二年間を自身は「生涯もっとも憂鬱な時」と述べている様に、西洋文化に驚愕し、とまどい、苦悩し、完全なる適応障害に陥っている。下宿に引きこもってモンモン、ウツウツとした日々を送り、帰国を心待ちにしていた。帰国後二人はともに小説を書き始めている。

?外はドイツ留学中、ドイツ文学やその他の多数の書籍に接し、読みあさったであろうことは容易に想像出来る。ドイツでの恋愛体験をもとに「舞姫」を書いて小説家となった。この小説の文章は、和文調と漢文調をミックスした雅文体と呼ばれるもので、現代文とはだいぶ違うが、知的で美しいものである。これら初期の?外の作品は、我々現代人にスラスラ読める文章とは言い難く、私自身の経験では十分な時間的余裕と読破するぞとの強い意志がなければ、読み終えるのは困難であり、先へ読み進む内に前の内容を時々忘れてたりで、ともかく読むのに四苦八苦と言う言葉が当てはまる。漱石の様に最初から言文一致の文章をなぜ書かなかったか疑問が浮かんでくるが、ドイツ語に余りにも堪能(読み・書く・話す)で、しかも飛び抜けて頭脳明晰であった為、自身が言文一致の必要性を感じず、従って思いつくことすらなかったのではと想像している。?外は津和野の藩医の息子として生まれ、武士としての誇り、忠孝を重んずる封建的イデオロギーが深く心に刻み込まれており、軍医として国家の為に働き、忠誠を誓うことはしごく当然であった。従って作家として十分に自立・自治出来ようとも定年まで軍を辞める気などサラサラなかったに違いない。執筆はまあ一種の趣味だった。

ともかく小説・戯曲・翻訳と広範囲に活動し、しかも長く 30 数年間の執筆活動を支えたのは、?外のまさに自然に湧き出てくる泉の様な永遠に枯渇することがない、天才のみが持ちうる才能だったのである。?外の全作品の内、翻訳が約半分を占めている。代表例はアンデルセン「即興詩人」ゲーテ「ファウスト」が挙げられる。?外の語学力と「原作」をトランスフォームした意識であり、広い意味での翻訳と言う作業に?外以上の優れた翻訳者(原作をブラッシュアップする)は日本の文学史上存在しないと考えている。

漱石が教師(イギリス留学以前)をしていた頃、おそらく?外に対して、作家として世評は高くしかも高級官僚として安定した生活にうらやましいとの気持ちを抱いていた。漱石は作家デビューした後も大先輩として敬い、自身の新刊書が出ると贈呈してはいたが、親しく交際したわけではなかった。雲上の人であり、自身の作品に?外からは何んら影響を受けないと考えていたのであろう。評論家に言わせるとむしろ?外の方が漱石の作品を意識しており、面白いのは?外の「青年」と言う小説は、明らかに漱石の「三四郎」に刺激を受けて、いわば対抗意識から書かれたのではないかと言われている。作品的完成度では「三四郎」に及ばないと言われている。しかし?外の作家人生は充実しており、「高瀬舟」「寒山拾得」を書き、豊穰の時を迎えた。そして明治天皇崩御とそれに伴う乃木大将の自決に接し、突然「阿部一族」「渋江抽斎」等の歴史小説を書き始める。歴史小説が最も優れているとの評価もある。一方漱石は最初の小説となる「吾輩は猫である」の書き出しは「吾輩は猫である。名前はまだ無い」。これは当時としては漱石にしか書けない小説であり出だしである。なぜなら彼は英文学者であり、東大でも英文学を講義していた。そして二年半のイギリス留学をしており、当然多くの英文学作品を読んでおり、出だしを翻訳すると、「I am a cat but I don't have my name yet」となる。

この文章の背後には英文構成の存在が隠れており、そのせいで情感やムードに流れることなく、きっちり論理性を持った文章になっている。漱石は自ら江戸っ子を称し、洒脱さを身につけた庶民の出であり、英語の素養と相まって明治期以前の古い文体ではなく、言文一致の文章が書けたのではないかと考えている。漱石以前に言文一致の小説は、金沢出身の文豪泉鏡花が明治 30 年に「化鳥」を書いているぐらいである(ちなみに中国では魏会員によれば魯迅が最初の様である)。そして私の見るところ、論文を書くことも出来るまさに現代の文章の出発点・起源となったのはやはり「漱石」であり、現在我々が日常用いている文章をつくった先駆者でありインベーターと言える。

明治と言う新しい時代に入って、江戸時代の様な「候(そうろう)候(そうろう)文」ではなく、新しい文体をつくらねばと、当時の文筆を生業とする人々は考えていた。言文一致運動をした二葉亭四迷や、割とわかりやすい文章を書いた福沢諭吉、そして山田美妙なども言文一致を目指して、<だ><である>体がいいか、<です><ます>体がいいか、散々苦勞し努力したにもかかわらず、決定的な成果は出せなかった。そんな時代の中でイギリス帰りの漱石は何んの苦勞もなく、いとも簡単に言文一致の「吾輩は猫である」を書き、現代文をするりと完成させた。ある意味、日本文学史上に金字塔を打ち立てたと言ってよい。これだけでも十分なのに「坊ちゃん」「草枕」「虞美人草」「三四郎」「こころ」「道草」「明暗」とわずか 11 年余りの執筆活動の中で、上記の様な名作を次々と生み出した。処女作となる「吾輩は猫である」の執筆中に創作は自分に向いている、書くことは楽しいと漱石は思った。それに比べて学校で費やす無駄な時間、大体日本人に英語を教え、英文学を講じることに意義を見い出せず、大家族を養う為に必要な仮の生業としか考えておらず、教えることが嫌で嫌でしょうがない状態だった。帰国から二年後東大文学部教授昇進の打診を蹴って、東京朝日新聞社にそこそこの高給で入社している。当時の東京朝日新聞は社員 130 人ばかりの小さく若い会社であり、東大教授のイスを蹴って、いわばベンチャー企業の課長に転職する様なものだった。嫌な教職を辞め、創作専一の日を送れる環境に生来の神経症もどこかに吹っ飛び、ワクワクする日々だった。その年漱石は初めての新聞小説「虞美人草」を書き、大変な人気を博し、三越呉服店が「虞美人草浴衣」を売り出

す程だった。サクセスフルな転職だったと言える。没するまでの10年余り、好きな道をただひたすら歩んだ幸せな日々だった。

最後に?外がもし現代に蘇ることが出来たとしたら私は次の様にインタビューしてみたい。「先生、あなたは読者のことを考えて執筆したことはありますか?」との問いに?外いわく“余は自然に脳裏に浮かんだことを書いたまです。歴史小説とか戯曲などは一応構想を練ったが、他は頭に浮かんだ文章が、勝手に余の手を動かして紙に表現したまです”と。“故に読者の為とか、読者はどう余の作品を評価してくれるとか、ましてや売れるかどうかなど一度も考えたことも期待したこともない”との返答が返って来た。以上は大天才森?外の実像であろう。そして最後につぶやいた。“何を書こうと余の勝手だ”と。

一方漱石に同じ質問をすると“もちろん私は読者に読んでいただいて喜ばれる作品を書いたつもりです”と。“その上私の家庭はもの入りで、少しでも多くの収入が必要で、意識的に西洋文化の香りを取り入れておもしろおかしく書く努力をしました”と。“後半の作品<道草><それから><明暗>は日本文化と西洋文化のはざま、そして余りにも違う実質性に悩み、行き詰まった結果、日本的なものに回帰しました”と返答してくれた。「吾輩は猫である」「坊ちゃん」などは小学校高学年になれば容易に笑いながら読破出来る。大抵の日本人は漱石作品の一つや二つは読んでいる。現在でも漱石のほとんどの作品は文庫本の中でもベストセラーだ。まさに漱石は国民的作家と言える。それを裏付ける様に漱石は以下の様に語っている。“最近私の三・四代のちの末裔達は著作権の延長を主張するなど、お恥かしい限りです。私の作品がこんなにも皆様へ愛されて私は幸せ者です。私の著作のすべては皆様のものです”と。漱石は明治から現在に至る作家の中でナンバーワンかも知れない。

ロータリークラブの皆さん 郭 純さんから

こんにちは。久しぶりです。皆さんは元気でしょうか。最近東京は急に暑くなってきました。いくつ報告したいことがあります。①9月にアメリカに留学することが決まりました。留学先は UC サンディエゴです。初めてのアメリカなので、ドキドキしながら準備を進めています。②. 7月17日に北陸大学の招きで北陸に戻る予定となっています。もしお時間があれば、ぜひロータリーの皆さんにもお会いして感謝の意を表したいと思います。③.先日楊さんが銀座で行われた個人展を見に行きました。すばらしかったです。奨学生の後輩として、非常に立派な人だと思います。以上は私の報告になります。今東京を離れるのは7月末を予定しており、一時期香港の学会に参加した後、帰国します。そして9月にアメリカに行くという計画をたてています。よろしくお願ひします。郭じゅん

郭純 Guo Chun 東京大学公共政策大学院経済政策コース修士2年
Master Candidate, Graduate School of Public Policy, University of Tokyo

日本にとっての原発とは その4

村田祐一

権力の座を降りた細川、小泉元首相をマスコミもう大々的には取り上げてはくれません。庶民に対する影響力は少しは残っていますが、マスコミが取り上げないことには發揮できません。マスコミはすでに安部政権が牛耳っているからです。漫画「美味しんぼ」では風評被害とやらで政府をはじめとしてバッシングを受けました。擁護する方たちもまだたくさん存在しているのが心強い限りですが、いつまで自由に発言できるのでしょうか?

表現の自由も少しづつじわじわと侵され始めました。

総括原価方式(そうかつげんかほうしき)をごぞんじですか?供給原価に基づき料金が決められるものであり、安定した供給が求められる公共性の高いサービスに適用されています。この総括原価方式が適用されているものとして、電気料金、ガス料金、水道料金などがあります。一般の企業は原価をできるだけ抑えて良いものを作り利益を上げる努力をします。しかし、電力会社は原価の約3%を利益にできていることになっています。総括原価方式が適応されると原価が高いほうが料金を高く設定でき、利益も多くなります。同じ出力の火力発電よりも原発だと建設費が10倍以上になります。石油、LPG、石炭もより安く買う努力をする必要がないので諸外国よりも高く買っています。その結果、利用者は高い電気を使わざるを得ません。その上国策の原発には政府から様々な援助が得られます。ぼろもうけの資金を使って政治家、マスコミ、研究者、建設業者、原発関連企業とその下請けに恩恵を与えて、懐柔します。うまい仕組みを考えたものです。お金の威力は絶大です。今も放射性物質を垂れ流している福島原発をコントロール下にあると発言して、東京オリンピックの誘致合戦に勝利してしまいました。世の中、真実だけを伝えれば世の中正常に動くものではないようです。美味しんぼの作者雁屋哲氏によれば、今の日本の社会は「自分たちに不都合な真実を嫌い」「心地の良い嘘を求める」空気に包まれている。これが現実です。

お知らせ

留学生のブリアナさんが、6/21(土)小松空港 14:40発の便で立たれます。 特に会員が集まってお見送りする予定はございませんが、お時間の許す有志の皆様、各々空港にてお見送りをお願いいたします。

『2013-14年度 慰労会(例会)』と『新入会員の歓迎会』のご案内

今年度野城会長・上杉幹事をはじめ役員の方々の慰労会と今年度入会頂いた宍戸会員、稲山会員、高田会員の歓迎会を下記の通り企画しました。多数ご出席いただきますようご案内申し上げます。ご家族の参加も歓迎いたします。

記:日時 2014年6月26日(木) 19時00分より 場所 ジャルダン ポール・ボキューズ

申込〆切 6月5日(木) 金沢市広坂21-1 しいのき迎賓館内(TEL:261-1161) 会費 会員・ご家族 13,000円